

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成 31 年 3 月 28 日

スタッフ5名

事業所名 はぐはぐ子ども村西都

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5			H31.4より事業所の移転により広いスペースの確保ができる。
	2	職員の配置数は適切である	4	1		適切な人員配置を行っている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	1	1つの部屋を活動などで仕切って使用し死角になる部分が少ない。目隠し用のカーテン、布などを使って環境整備している。間仕切りなど使い集中できる活動空間を工夫している。片付け場所が分かりやすいよう玩具の写真を貼る。	4月から利用する場所でも、児が過ごしやすい環境を整えていきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5		毎日掃除を行い清潔につとめている。サーキットの部屋と会の部屋を別にしたり、アコーディオンカーテンを使って仕切り、活動に集中しやすいようにしている。	活動に合わせて職員で話し合いながら、工夫をしていきたい。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	1	職員間で常に話し合いをしている。	非常勤の指導員が会に参加出来ない時は、個別で意見を聞いていきたい。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	2	保護者の意見を聞き、業務改善につなげている。	今年度保護者評価を開始したので、改善につなげていきたい。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している		5	今年度より行う。	今年度より評価を公表する。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		5		第三者評価については検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5			外部、園内の研修は重要であり、今後さらに増やしていく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5		見学の際、アセスメントをとり計画に役立てている。	必要に応じて複数の職員による客観的分析を図るなど改善していく。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	2	アセスメント用紙を活用している。	様式の改善などを引き続き改善していく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	1		児童発達支援ガイドラインを周知していく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5			今後もケース会議などで計画の検証をしていく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5		職員間で話し合い、療士士の指導を仰ぎながら行っている。	今度もそれぞれの専門分野の職員にアドバイスをもらって行う。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		毎日スタッフ間の情報交換を密に行っている。	今度もそれぞれの専門分野の職員にアドバイスをもらって行う。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4	1		日常の観察をきちんと行い状況の把握を正確に行い支援計画に反映するよう努める。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		毎日昼礼で情報交換、共有をしている。	当日の支援についての職員相互の確認作業をしっかりと行う。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		職員間で振り返り、情報共有している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		毎日の記録、カンファレンス等	記録の方法、形式、内容については検討する必要がある。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5		月別表、ケース会議を行っている。	現在、6か月ごとの見直しであるが、間隔を短くする必要がある利用者については検討を行っていく。	

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		原則、児童発達支援管理責任者が参画している。	その都度適切な人選を行う。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5		関係諸機関との連携を図っている。	より密な連携を構築の必要性を認識している。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				現在、利用者に対象児がいないが、今後検討の必要と考える。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				現在、利用者に対象児がいないが、今後検討の必要と考える。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		関係者の見学希望の時は丁寧に対応している。	子どもたちは並行通園を利用しているため、移行支援の対象ではないが、関係機関との情報共有を図っていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		関係者の見学希望の時は丁寧に対応している。	子どもたちは並行通園を利用しているため、移行支援の対象ではないが、関係機関との情報共有を図っていく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1	法人内の児童発達支援センターとの連携をとっている。研修にいたり、ケース会議等でアドバイスをもらっている。随時園長に密に報告、連絡、相談をしている。	児童発達支援センターでの研修を随時受けているが他の専門機関との連携も築いていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		5	全員保育園、幼稚園との並行通園の子どもであり、集団の中	園としての交流の機会を検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5		参加を行っている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	1	送迎時、母子通園時などを機会としている。	仕事でなかなか母子通園に参加出来ない保護者もいるので、様子の伝え方を検討していく。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている		5		法人内の児童発達支援センターが行っているトレーニングを取り入れることを検討していく。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		契約時に丁寧に伝えている。	わかりやすい資料の作成などを行っていく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	3	2	保護者との面談に際しては十分な説明の上同意を得よう工夫	支援計画についての説明を含め改善していく必要があり、さらに努めていく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	1	母子通園後の懇談で相談の場になっている。	必要に応じて今後も心理士との個別面談の場を設ける。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	2	保護者懇談会を月に1回計画しており、保護者間の交流の場としても時間を共有している。	保護者同士の交流は少ないので検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4	1	必要に応じて、心理士との個別面談を行っている。	保護者の方とのやり取りを増やし、相談しやすい環境づくりにつとめる。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		毎月1回お便りや年1回ニュースレターを発行している。	今後も活動の様子を分かりやすく伝えていきたい。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5			今後も細心の注意を払いたい。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			電話やメールで連絡を取ったり、送迎時に丁寧に対応している。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	1		イベントには地域の方にも声を掛けている。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	1		4月から事業所の移動がある為、再度確認し職員間で周知し訓練を実施していきたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		毎月1回避難訓練を行っている。	有効な訓練内容への改善を今後とも工夫していく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	3	2		職員間で情報共有し周知して対応していきたい。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2		食事の提供は無いが、職員間で情報共有し周知して対応していきたい。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		5		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5			毎年研修に参加した職員を中心に全体研修を行っている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	2		検討していきたい。